

その他安全性情報

バクスマー（グルカゴン点鼻粉末）を過量投与したときの症状は？

悪心、嘔吐、消化管運動抑制、血圧上昇、脈拍数増加及び血清カリウム低下が起こる可能性があります。

[解説]

過量に投与された場合は、悪心、嘔吐、消化管運動抑制、血圧上昇、脈拍数増加及び血清カリウム低下が起こる可能性があります。急激な血圧上昇が認められた場合は、適切な血圧降下処置を行ってください。ただし、β遮断剤の投与を避けてください¹⁾。

また、過量投与が疑われる場合には、血清カリウム値が低下する可能性があります。適切なモニタリングを行い、必要に応じ適切な処置を行ってください。

[引用元]

[バクスマー 添付文書](#)

最終更新日: 2022年09月

その他安全性情報

バクスミー（グルカゴン点鼻粉末）を投与し、意識が戻った後、補食ができれば病院に行かなくていいか？

本製剤を投与したら直ちに主治医に連絡し、受診について相談してください。

[解説]

本製剤投与で意識レベルが一時回復しても、原因や状況によっては低血糖の再発や遷延の可能性があります1)。

意識レベルの低下を伴うような重症低血糖については注意深い経過観察と再発予防処置が必要です2)。

本製剤を投与したら直ちに主治医に連絡し、受診について相談してください3)。

[引用元]

1)[バクスミー 添付文書](#)

2)日本糖尿病学会: 糖尿病診療ガイドライン2019

3)[バクスミー 取扱説明書](#)

最終更新日: 2022年09月

その他安全性情報

他の点鼻薬を使用している患者にバクスミー（グルカゴン点鼻粉末）を使用してよいか？そのような場合効果に差はあるのか？

感冒に罹患し、その後回復した成人被験者36例を対象とした海外第I相臨床試験（IGBE試験）において、鼻閉改善薬の使用群、非使用群のいずれの群においても本製剤投与5分後にグルコース濃度の上昇が認められました。

[解説]

本製剤と鼻閉改善薬（oxymetazoline）以外の点鼻薬との併用に関するデータはありません。

鼻閉や鼻汁を伴う感冒に罹患し、その後回復した成人（18～50歳）被験者36例を対象とした海外第I相臨床試験（IGBE試験）において、oxymetazolineの使用群、非使用群で本製剤（治験用製剤）の薬物動態、薬力学、安全性について検討しました¹⁾。

いずれの群においても本製剤投与5分後にグルコース濃度の上昇が認められました¹⁾。ΔBGmaxは鼻炎薬非併用の感冒患者で52.2 mg/dL、感冒から回復した被験者で48.6 mg/dL、鼻炎薬併用の感冒患者で61.2 mg/dLでした。全ての被験者で有害事象がみられましたが、そのうち高度の症状であったのは嘔気嘔吐、鼻閉、鼻汁、流涙の計7イベント（2.4%）のみで、他は軽度から中等度の一過性症状でした。いずれかの群で発現割合が20%以上であった器官別大分類が「呼吸器、胸郭および縦隔障害」の有害事象は、鼻漏（鼻炎薬非併用の感冒患者55.6%、感冒から回復した被験者29.4%、鼻炎薬併用の感冒患者77.8%、以下同順）、鼻閉（22.2%、17.6%、22.2%）、鼻部不快感（27.8%、17.6%、22.2%）、くしゃみ（27.8%、17.6%、16.7%）、鼻そう痒症（50.0%、11.8%、61.1%）でした¹⁾。

[引用元]

1)バクスミー申請資料概要CTD2.7.6.2（承認時評価資料）

最終更新日: 2022年09月

その他安全性情報

インスリノーマに対してバクスミー（グルカゴン点鼻粉末）を投与する場合、注意すべき点は？

本製剤の投与により、一旦、血糖値が上昇した後、直接又は間接的（血糖上昇に対する反応性）に過度なインスリン分泌が促され、低血糖を起こすおそれがあります。

[解説]

本製剤の投与により、一旦、血糖値が上昇した後、直接又は間接的（血糖上昇に対する反応性）に過度なインスリン分泌が促され、二次的な低血糖を起こすおそれがあります。本製剤投与後に低血糖症状が認められた場合はブドウ糖の経口投与又は静脈内投与を行ってください1)。

[引用元]

1) [バクスミー 添付文書](#)

最終更新日: 2022年09月

その他安全性情報

褐色細胞腫の患者がバクスミー（グルカゴン点鼻粉末）の禁忌にされている理由は？

グルカゴンが褐色細胞腫からのカテコールアミンの遊離を刺激して、急激な血圧の上昇を招くおそれがあるため、禁忌としています。

[解説]

グルカゴンが褐色細胞腫からのカテコールアミンの遊離を刺激して、急激な血圧の上昇を招くおそれがあるため、禁忌としています¹⁾。

[引用元]

[1\)バクスミー 添付文書](#)

最終更新日: 2022年09月

その他安全性情報

バクスミー（グルカゴン点鼻粉末）と併用してはいけない薬剤は？

併用してはいけない薬剤（併用禁忌）はありませんが、β遮断剤、ワルファリンカリウムを併用する場合には、注意が必要です。

【解説】

併用してはいけない薬剤（併用禁忌）はありませんが、β遮断剤、ワルファリンカリウムを併用する場合には、注意が必要です¹⁾

表 1. 併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
β遮断剤 ビソプロロールフマル酸塩 カルベジロール アテノロール等	脈拍数の一時的な増加及び血圧の一時的な上昇が 起こることがある。	β遮断剤の薬理作用が、グルカゴンのカ テコールアミン分泌刺激に伴う臨床症 状発現に影響する可能性がある。
ワルファリンカリウム	ワルファリンカリウムの抗凝血作用が増強するこ とがある。	機序は不明である。

【引用元】

1) [バクスミー 添付文書](#)

最終更新日: 2022年10月